

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第45集

市内遺跡発掘調査報告書1994

1996. 3

佐久市教育委員会

例 言

1 本書は、1994年度（平成6年度）において個人住宅、民間開発及び公共開発に係る試掘調査並びに立ち会い調査を実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2 事務局の構成

1995年度（平成7年度）

○発掘調査受託者 教 育 長 大井 季夫（6月退任）
依田 英夫（7月就任）

事務局

教 育 次 長	市川 源
埋蔵文化財課 課 長	戸塚 満
管 理 係 長	谷津 恭子
管 理 係	田村 和広
埋蔵文化財係長	大塚 達夫
埋蔵文化財係	林 幸彦、三石 宗一、須藤 隆司、小林 眞寿、 羽毛田卓也、富沢 一明、上原 学
副 査 主 任	佐々木宗昭、森泉かよ子

3 各遺跡の執筆は発掘調査担当者が行い、編集は三石が行った。

4 本書掲載の関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管してある。

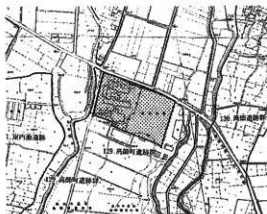
目 次

1 高師町遺跡群 2	(1)	23 中塚遺跡群 5	(47)
2 枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡Ⅱ	(3)	24 岩村田遺跡群Ⅱ	(49)
3 寺塚遺跡群寺塚遺跡Ⅰ	(4)	25 池端遺跡Ⅰ	(51)
4 常田居屋敷遺跡群 2	(6)	26 上の城遺跡群 5	(55)
5 常田居屋敷遺跡群 3	(8)	27 鴨沢遺跡群 2	(58)
6 宮の上遺跡群 2	(10)	28 西人久保遺跡群 1	(62)
7 北西ノ久保遺跡Ⅰ	(12)	29 栗毛坂遺跡群Ⅲ	(63)
8 蛇塚Ⅱ遺跡群蛇塚Ⅱ遺跡Ⅱ	(14)	30 三千米遺跡群Ⅰ	(65)
9 三千米遺跡群寺浜遺跡Ⅰ	(16)	31 中反遺跡群 2	(67)
10 錦師屋遺跡群 1	(18)	32 下蟹沢遺跡群 1	(68)
11 上久保田向遺跡 5	(20)	33 西大久保遺跡群 2	(70)
12 権現平遺跡Ⅰ	(22)	34 船子田遺跡Ⅰ	(72)
13 香屋前遺跡群 6	(24)	35 長土呂遺跡群惣原遺跡Ⅹ	(74)
14 権名平遺跡	(26)	36 戸屋敷遺跡群 2	(77)
15 平賀中屋敷遺跡群中屋敷遺跡Ⅰ	(28)	37 芝宮遺跡群高山遺跡Ⅱ	(79)
16 芝宮遺跡群 7	(30)	38 中道遺跡 2	(80)
17 香屋前遺跡群 7	(32)	39 上小平遺跡 2・桃敷遺跡 3	(81)
18 平・横根古墳群 1	(34)	40 上久保田向遺跡 6	(82)
19 西赤座遺跡 8	(36)	41 一本柳遺跡群 6	(83)
20 常田居屋敷遺跡群 4	(40)	42 中久保田遺跡 1	(84)
21 垂屋遺跡群 8	(43)	43 中金井遺跡群 3	(86)
22 平賀城跡 3	(45)	44 厨防塚遺跡群 5	(88)
付表 1994年度市内遺跡発掘調査一覧表	(90)		
付図 1994年度市内遺跡発掘調査位置図	(91)		

試掘調査

1 高師町遺跡群 2

所在地 佐久市大字新子田地籍 1396-1他
開発主体者 佐久市（学校教育課）
開発事業名 学校改築
調査期間 平成6年4月1日
面積 31,199㎡
調査担当者 三石 宗一



高師町遺跡群 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

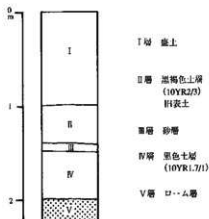
高師町遺跡群は、佐久市大字新子田地籍に所在し、南北に縦走する田切り地形にはさまれた台地上に位置し、標高705～710m付近を測る。本遺跡群内では昭和61年度に高師町遺跡の発掘調査が行われ、平安時代と考えられる堅穴状遺構1基、特殊遺構2基の他、柱穴址・土坑・溝状遺構等が検出されている。

今回、佐久市学校教育課により東中学校改築工事が計画されたため、遺構の存在を確認することを目的として試掘調査を実施した。

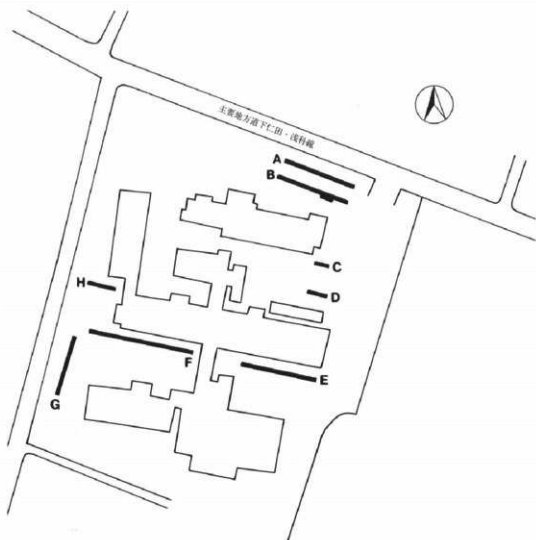
調査の結果

調査対象地内にA～Hの8本の試掘トレンチを掘り下げて調査を行った。その結果、調査区西側のF・G・Hトレンチにおいては、10～20cmの盛土（I層）直下にローム層が確認されたのに対し、東側のA・B・Eトレンチ東端部及びC・Dトレンチでは80～180cmの盛土が行われ、その下に第Ⅱ層旧表土、第Ⅳ層黒色土層が確認され、わずかではあるが第Ⅲ層砂層も認められた。従って、本調査区内の旧状は西方から東方に向かって傾斜し、調査区東側には谷部が存在するものと考えられ、校舎建築の際に斜面を切り崩して盛土を行い、現在の平坦面が形成されている。

本遺跡内の遺構確認面は、第Ⅲ・Ⅳ層上面であるが、今回の調査では遺構・遺物とも検出されなかったため、試掘調査終了後工事が実施された。



高師町遺跡群 2 土層柱状図



高師町遺跡群 2 調査全体図 (1:1,250)



高師町遺跡群 2 A トレンチ (東方から)



高師町遺跡群 2 E トレンチ (東方から)

試掘調査

枇杷坂遺跡群

2 上久保田向遺跡Ⅶ

所在地 佐久市大字岩村田字上久保田向

212-5・207-1

開発主体者 佐久市（区画整理課）

開発事業名 道路改良工事

調査期間 平成6年4月22日

面積 458㎡

調査担当者 森泉かよ子

立地と経過

上久保田向遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置する。この地域は上信越自動車道関係の発掘調査をはじめ佐久流通業務団地造成事業、道路整備事業、その他民間開発等に伴う大規模な発掘調査が継続して行われており、本遺跡内においても平成元年度から平成5年度にかけて区画整理事業・民間開発に伴う上久保田向遺跡Ⅰ～Ⅵの発掘調査が実施されている。

今回、佐久市区画整理課による道路改良事業が計画されたため、試掘調査を行った。

調査の結果

調査区内にトレンチを設定し遺構の確認を行ったところ、竪穴住居址2棟、溝状遺構4条が検出され、保護協議の結果、発掘調査を実施することとなった。



上久保田向遺跡Ⅶ位置図(1:10,000)



上久保田向遺跡Ⅶ調査地点近景（北方から）



上久保田向遺跡Ⅶ調査全体図(1:1,000)

試掘調査

寺畑遺跡群 3 寺畑遺跡 I

所在地 佐久市大字猿久保字下原 591-1、594他

開発主体者 佐久市（都市計画課・土木課）

開発事業名 道路整備事業

調査期間 平成6年5月6・7日

面積 3,074㎡（都市計画課）、330㎡（土木課）

調査担当者 上原 学

立地と経過

寺畑遺跡群寺畑遺跡 I は佐久市大字猿久保字下原に所在し、遺跡の北側を流れる湯川の第2段丘面北端に位置する。標高は688mを測る。今回、佐久市都市計画課・土木課による道路整備事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査は幅1.5mのトレンチを南北方向に11本、東西方向に3本入れ遺構の確認を行った。その結果、都市計画課事業用地内より堅穴住居址2棟、溝状遺構2条、土木課用地内より土坑4基を確認した。遺物は縄文時代の石器及び住居址確認面上から土師器・須恵器が数点出土した。

試掘調査終了後保護協議を行い、都市計画課用地内は平成6年度に発掘調査を実施し、土木課用地内は平成7年度に調査を行うこととなった。



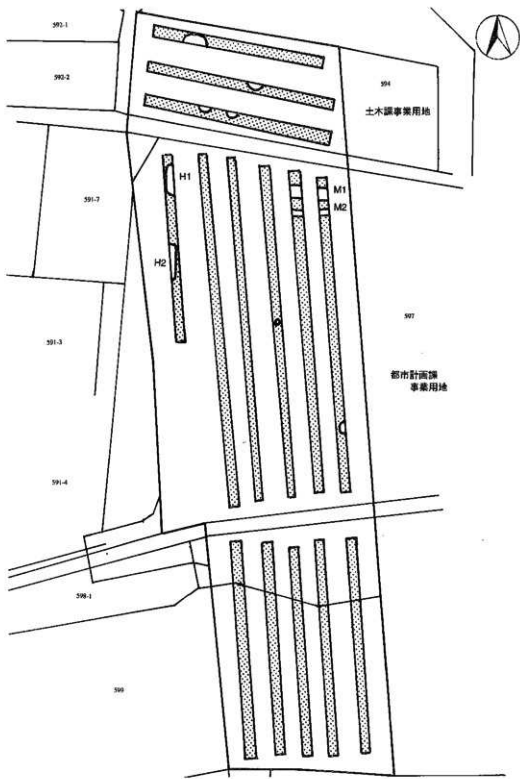
寺畑遺跡 I 位置図(1:10,000)



寺畑遺跡 I 調査地点近景（北方から）



寺畑遺跡 I 遺構検出状況（北方から）



寺増遺跡1調査全体図 (1:500)

試掘調査

4 常田居屋敷遺跡群 2

所在地 佐久市大字塚原字屋敷
288-1・8、287-1

開発主体者 竹花 忠雄

開発事業名 貸店舗建設

調査期間 平成6年5月9日

面積 2,706㎡

調査担当者 林 幸彦



常田居屋敷遺跡群2位置図(1:10,000)

立地と経過

常田居屋敷遺跡群は佐久市の南西隅に位置し標高は691mを測り、弥生時代後期から平安時代の遺物が確認されている。また、群内には家地頭古墳群や大塚塚古墳群が存在する。

今回、竹花忠雄氏が貸店舗を建設することになり、水田であり遺跡の詳細が不明のため試掘調査を実施した。

調査の結果

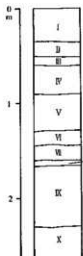
東西試掘トレンチの西方および北方部分に塚原泥流が堆積し、他の大部分は木や葦・葎を含む腐植質層が堆積する低湿地であった。腐植質層は表土下1mから2.3mにわたってみられ、その下部には浅間第一軽石

流の二次堆積が続く。土層断面を詳細に観察したが、水田址等は確認できなかった。

遺物は出土しなかった。調査終了後埋土され、店舗が建設された。

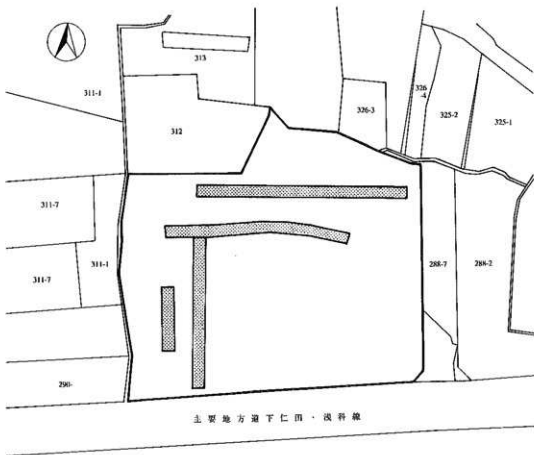


常田居屋敷遺跡群2トレンチ（西方から）



- | | | |
|-------|------------------|-----------------|
| I層 | 水田耕土 | |
| II層 | 褐色土 (7.5YR4/6) | 水田床土 |
| III層 | 黒色土 (7.5YR2/1) | |
| IV層 | 黒色土 (7.5YR2/1) | 砂・小礫を少量含む |
| V層 | 褐色土 (7.5YR2/1) | 腐食質層 |
| VI層 | 黒褐色土 (7.5YR2/2) | 少量の水を含む腐食質層 |
| VII層 | 黒色土 (7.5YR1.7/1) | 腐食質層 |
| VIII層 | 褐色土 (7.5YR4/1) | 砂層 |
| IX層 | 褐色土 (7.5YR4/1) | 腐食質シルト層 |
| X層 | 極暗褐色土 (7.5YR2/3) | Paの2次堆積、木を多量に含む |

常田居原教遺跡群2上層柱状図



常田居原教遺跡群2調査全体図 (1:750)

試掘調査

5 常田居屋敷遺跡群 3

所在地	佐久市大字塚原字長塚 334-1・3・4、333-4、1021-1・5他
開発主体者	株式会社アメック
開発事業名	宅地造成
調査期間	平成6年6月13日
面積	2,600m ²
調査担当者	上原 学

立地と経過



常田居屋敷遺跡群3位置図 (1:10,000)

常田居屋敷遺跡群は、佐久市大字塚原に所在し、標高693m付近の比較的平坦な台地上に位置する。この地域は多くの古墳が認められ、遺跡群内には家地頭古墳群・大豆塚古墳群などが所在する。昭和50年には家地頭古墳群家地頭古墳1号墳の調査が行われ、墳丘・主体部の構造・出土遺物など詳細な報告がされている。また、本調査区東側には隣接して家地頭古墳2号墳が認められるため、古墳に付随する遺構の存在が予想された。

今回、株式会社アメックによる宅地造成工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査は東西方向に6本のトレンチを入れ遺構の確認を行った。調査の結果、遺構・遺物の確認はできなかったため埋め戻しの後造成工事が実施された。



常田居屋敷遺跡群3調査地点近景 (西方から)



常田居屋敷遺跡群3調査地点近景（北方から）



常田居屋敷遺跡群3調査全体図（1:1,000）

試掘調査

6 宮の上遺跡群 2

所在地 佐久市大字根々井芝宮
222-3、223-1他

開発主体者 佐久市土地開発公社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成6年6月27・28日

面積 2,704㎡

調査担当者 上原 学



宮の上遺跡群 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

宮の上遺跡群 2 は、佐久市大字根々井芝宮に所在する。ここでは、湯川の浸食作用によって形成された比較的平坦な段丘面上にあたり、標高は686mを測る。

また、平成4年度に同じく根々井芝宮遺跡の調査が行われており、弥生時代の住居址を数多く確認した。このため本地域においても遺構の存在が予想された。

今回、佐久市土地開発公社によって宅地造成が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

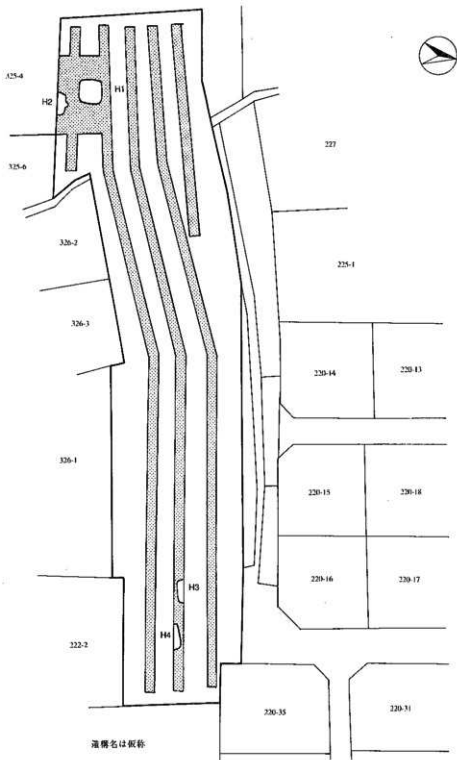
調査は東西方向に5本のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。その結果、平安時代の住居址4棟を確認し、検出面から土師器・須恵器片が数点出土した。このため、開発主体者と改めて協議を行い、住居址4棟については遺構検出面から1m内外の埋土を行い、造成工事が実施された。



宮の上遺跡群 2 トレンチ (東方から)



宮の上遺跡群 2 トレンチ (西方から)

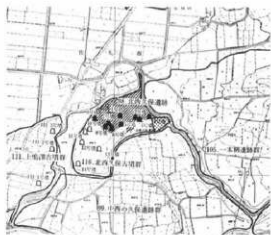


宮の上遊路群 2 調査全体図(1:750)

試掘調査

7 北西ノ久保遺跡 1

所在地	佐久市大字岩村田 字北西ノ久保 2364
開発主体者	学校法人 佐久学園
開発事業名	ゴルフ練習場建設
調査期間	平成6年7月1日
面積	1,217㎡
調査担当者	上原 学



北西ノ久保遺跡 1 位置図 (1:10,000)

立地と経過

北西ノ久保遺跡は、佐久市大字岩村田字北西ノ久保に所在する。ここは湯川の右岸にあたり、岩村田市街地南部から西へ1kmの、南北にのびる台地上に位置する。標高は685m付近を測る。この周辺は遺跡の密集地帯で、一本柳遺跡群・中西の久保遺跡など、弥生時代中期～平安時代にいたる多くの遺構が調査されている。

また、北西ノ久保遺跡は昭和57・60年の2回にわたる調査が行われており、弥生時代及び古墳時代等の住居址、古墳の周溝が数多く確認され、埴輪・土器など多彩な遺物を出土した遺跡である。

今回、学校法人佐久学園によりゴルフ練習場の建設が行われることとなり、遺構の破壊が予想される部分について試掘調査を行った。

調査の結果

調査は東西方向にトレンチを1本入れ、遺構の確認を行った。その結果、遺構の存在は認められなかった。遺物は土師器片2点出土した。

調査終了後に埋め戻しを行い、工事が実施された。



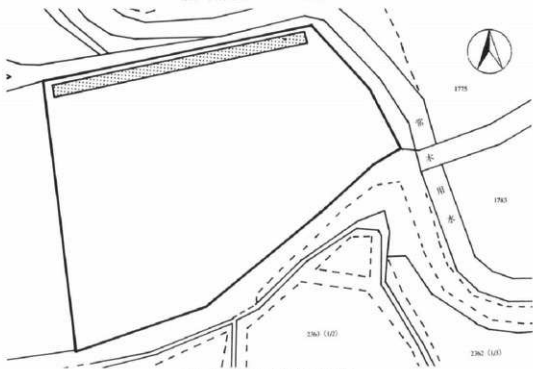
北西ノ久保遺跡 1 調査地点近景(東方から)



北西ノ久保遺跡 1 トレンチ (東方から)



北西ノ久保道跡1トレンチ (西方から)



北西ノ久保道跡1調査全体図 (1:500)

試掘調査

蛇塚B遺跡群 8 蛇塚B遺跡Ⅲ

所在地 佐久市大字新子田

1906-3~6

開発主体者 寿住宅株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成6年7月4・7日

面積 3,204㎡

調査担当者 上原 学



蛇塚B遺跡Ⅲ位置図 (1:10,000)

立地と経過

蛇塚B遺跡群は、佐久市大字新子田に所在し、比較的平坦な台地上に位置する。標高は705m付近を測る。同遺跡群内周辺では、昭和54・58年に県営住宅佐久市伊勢林団地建設に係る蛇塚B遺跡Ⅰ・Ⅱの調査が行われたほか、昭和59年には株式会社サンエス電気製作所の工場増設に関わる調査が行われ、多くの遺構が調査されている。

今回、寿住宅株式会社による宅地造成事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に幅1.5mのトレンチを南北方向に11本、東西方向に1本入れ、遺構の確認を行った。その結果、竪穴住居址4棟を確認した。

遺構の平面形は隅丸の方形及び長方形で、規模は最大のもので7×4.5mである。時期は、出土物から平安時代のもと考えられ、カマドは住居址の北壁または南東隅に構築されている。遺物は住居址確認面上から土師器・須恵器片が出土した。

保護協議の結果、平成6年度に発掘調査を実施することとなった。



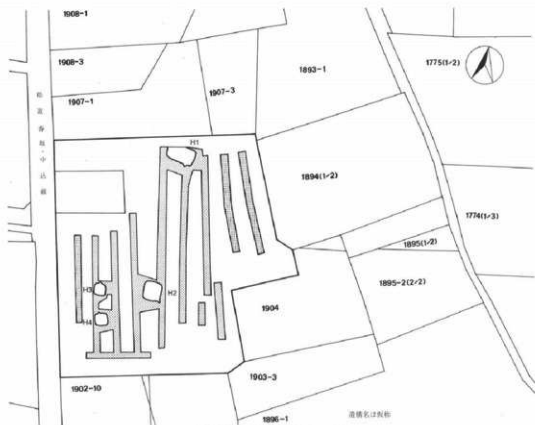
蛇塚B遺跡Ⅲ調査地点近景 (東方から)



蛇塚B遺跡Ⅲ遺構検出状況 (東方から)



蛇塚B遺跡Ⅲ遺構検出状況（南東方から）



蛇塚B遺跡Ⅲ調査全体図（1:1,000）

試掘調査

三千東遺跡群

9 寺添遺跡 I

所在地 佐久市大字三塚 73-9

開発主体者 長野県土地開発公社

開発事業名 職員宿舍建設

調査期間 平成6年7月12日

面積 2,128㎡

調査担当者 富沢 一明



寺添遺跡 I 位置図 (1:10,000)

立地と経過

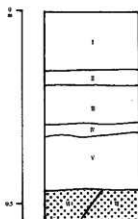
寺添遺跡は三千東遺跡群内に所在し、標高約670m前後の千曲川によって形成された沖積地に立地する。当遺跡周辺は大規模な圃場整備が終了し、水田となっている。

周辺の遺跡としては、市道遺跡・跡部町田遺跡・三塚遺跡などが調査されている。各遺跡からは、古墳時代中期・後期の住居址がいずれも確認されており、付近は大規模な集落遺跡の可能性を色濃く示している地域である。

調査の結果

開発対象地に幅約1.5mのトレンチを5本設定し調査を行った。その結果、重複が激しく正確な実数は把握できなかったが、少なくとも20棟以上の竪穴住居址が確認された。

試掘調査の後、保護協議を行ったが設計変更は難しく記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

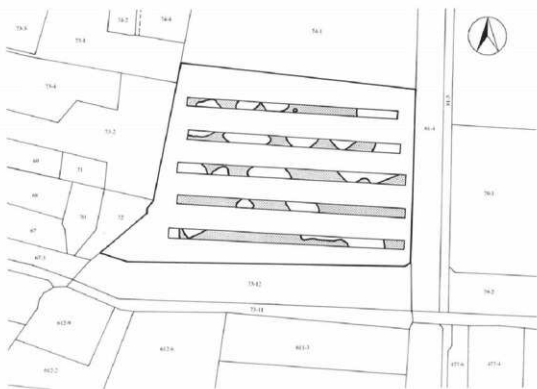


- I層 褐色土 (10YR6/1)
近代水田耕作土
- II層 赤褐色土 (2.5YR4/6)
水田床土
- III層 褐色土 (10YR6/1)
圃場整備前の水田耕作土
- IV層 黄褐色土 (10YR5/8)
水田床土、II層に比べうすい
- V層 黒褐色土 (10YR3/1)
黒色の糠積で、砂・小石を少量含む
- VI層 褐色土 (10YR4/6)
- VII層 黒褐色土を含むシルト化したローム土
- VIII層 礫層、人頭人の河原石・砂土体

寺添遺跡 I 土層柱状図



寺添道跡I調査地点近景（東方から）



寺添道跡I調査全体図（1:800）

試掘調査

10 鋳師屋遺跡群 1

所在地 佐久市大字小田井字下十二 591-8・10
開発主体者 山口藤吉郎
開発事業名 個人住宅
調査期間 平成6年7月27日
面積 1,000㎡
調査担当者 林 幸彦



鋳師屋遺跡群 1 位置図 (1:10,000)

立地と経過

鋳師屋遺跡群は佐久市の北端、小田井西屋敷を中心として、小諸市・御代田町の2市1町に及んでいる。標高は760m内外を測る。長野県営園場整備時に佐久市前田・鋳師屋遺跡、小諸市鋳物師屋遺跡、御代田町野火付・前田・十二・根岸遺跡が発掘調査され、古墳時代から平安時代の竪穴住居址446棟、掘立柱建物址431棟等が検出されている。遺物は多量の須恵器・土師器、埋葬馬・馬頭軽石製品、「長倉□□」・「大工」等の墨書土器が出土し、東山道の長倉駅や御牧の長倉牧との関係が考究されている。さらに、上信越自動車道用地内が長野県埋蔵文化財センター佐久調査事務所により、古墳時代から平安時代の竪穴住居址110棟、掘立柱建物址81棟等が発掘調査され、古墳時代後期末から奈良時代初頭の居館も検出されている。

今回、山口藤吉郎氏が住宅を建設するため試掘調査を実施した。

調査の結果

東西5本のトレンチから遺構・遺物とも検出されなかった。

試掘調査終了後に埋め戻され、住宅が建設された。



鋳師屋遺跡群 1 調査地点近景 (東方から)



鉤師屋遺跡群 1 調査地点近景 (東方から)



鉤師屋遺跡群 1 調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

11 上久保田向遺跡 5

所在地	佐久市大字岩村田 107-1他
開発主体者	佐久市（区画整理課）
開発事業名	公園造成
調査期間	平成6年8月3～7日
面積	5,760㎡
調査担当者	森泉かよ子



上久保田向遺跡 5 位置図(1:10,000)

立地と経過

上久保田向遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置し、南西方向にのびる田切り地形の台地上にあり、北側には長土呂遺跡群・芝宮遺跡群、南側には岩村田遺跡群など有数な遺跡群が展開している。この地域は上信越自動車道関係の発掘調査をはじめ佐久流通業務団地造成事業、道路整備事業、その他民間開発に伴う大規模な発掘調査が継続して行われている。田切りを隔てた北側には、平成元年度から約90,000㎡の調査が行われている聖原遺跡があり、竪穴住居址約930棟、掘立柱建物址約780棟にのぼる遺構が検出されている。本遺跡内においても平成元年度から平成6年度にかけて区画整理事業・民間開発に伴う上久保田向遺跡Ⅰ～Ⅳの発掘調査が実施され、平安時代の竪穴住居址を中心とする多数の遺構が検出されている。

今回、佐久市区画整理課による佐久市都市計画岩村田北部第一土地区画整理事業の一部として公園の造成が計画されたため、遺構の有無を確認することを目的として試掘調査を行った。

調査の結果

試掘調査の結果、平安時代の竪穴住居址1棟、溝状遺構1条、性格不明遺構1基、ピットが検出された。調査区北西部は削平が行われ、東側は埋め土をして公園が造成されるため竪穴住居址等は埋土保存されることとなった。

保護協議の結果、溝の北西部と建物用地にあたるピット地点は発掘調査を実施することとなった。



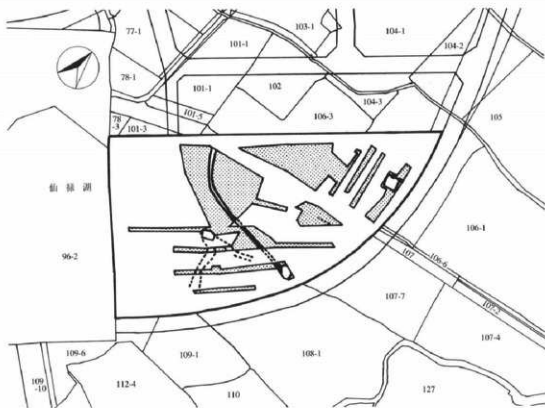
上久保田向遺跡 5 調査地点近景(西方から)



上久保田向道跡5遺構検出状況(南方から)



上久保田向道跡5遺構検出状況(北方から)



上久保田向道跡5調査全体図(1:750)

試掘調査

12 権現平遺跡 I

所在地	佐久市大字新子田・安原
開発主体者	セキスイハイム信州株式会社
開発事業名	宅地造成
調査期間	平成6年8月9～26日
面積	40,670m ²
調査担当者	富沢 一明



権現平遺跡 I 位置図 (1:10,000)

立地と経過

権現平遺跡は佐久市の東部に位置し、岡伽流山より派生した一山麓に所在する。遺跡の西側には霞川が南流し、標高は700～710mを測る。遺跡の地形及び地質は山地を形成する黄色の粘土層と浅間火山第一軽石流の堆積と浸食により複雑な様相を示すが、大きく概観すると南西に向けた傾斜地である。

周辺の遺跡としては、調査されたものとして宿上屋敷遺跡・光明寺遺跡など数例があるのみである。また、遺跡北方500mには式内社とされる英多神社と臨濟宗の古刹である安養寺がある。

今回、遺跡内に宅地造成の計画がなされ、試掘調査を行うこととなった。



権現平遺跡 I 調査地点近景 (南方から)

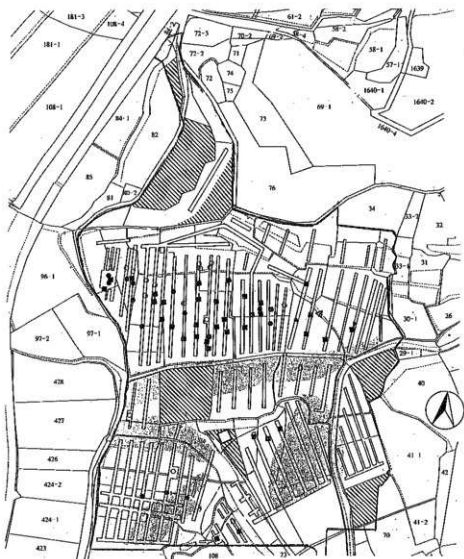


権現平遺跡 I 調査地点近景 (南方から)

調査の結果

開発対象地に幅約1.5mのトレンチを設定し調査を行った。その結果、標高710m内外の山裾部分と調査区東側の斜面では遺構・遺物ともに検出されなかった。南西に開けた傾斜面では縄文時代前期から平安時代にいたる竪穴住居址40棟以上、縄文時代と考えられる大型の円形土壌多数、一部火床面を伴う小鍛冶などが確認され、それに伴う土器・石器も多量に検出された。また、低地部分では石組を伴う井戸址や木片等が発見された。

試掘調査の後、二度の保護協議をおこなった結果、一部設計変更をしていただき削平部分と道路部分及び盛土により遺構に影響がある部分のみ発掘調査をすることとなった。



権現平遺跡Ⅰ調査全体図 (1:2,500)

試掘調査

13 番屋前遺跡群 6

所在地 佐久市大字猿久保字番屋前 7
開発主体者 ゼビオ株式会社
開発事業名 店舗新築工事
調査期間 平成 6 年 8 月 18 日
面積 4,183.26㎡
調査担当者 小林 眞寿



立地と経過

番屋前遺跡群は佐久市大字猿久保に所在し、標高690m内外を測る。遺跡群内の北側には金比羅塚古墳・御経塚古墳が存在し、遺跡群の東側は田切り地形が形成されている。

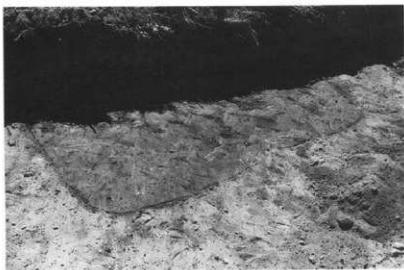
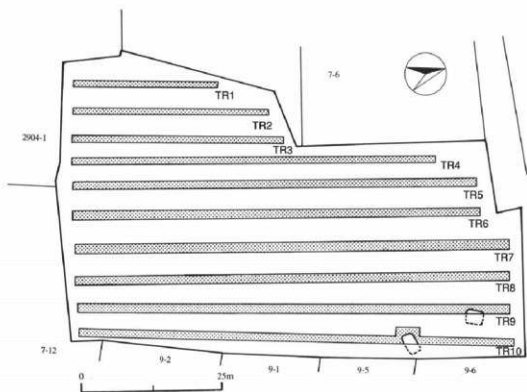
今回、ゼビオ株式会社による店舗の新築工事が行われることとなり、事前に試掘調査を実施した。

調査の結果

開発予定地の東端部分において、住居址と思われる1辺3mを測る方形の落ち込みを2基確認した。付近から平安時代の土師器の破片が1片のみではあるが採取されており、おそらく同時代の住居址と考えられる。遺構が検出された箇所は駐車場部分にあたり、遺構は破壊されないため埋土保存され、工事が実施された。



番屋前遺跡群 6 TR 9 内住居址 (西方から)



香屋前遺跡群 6 TR10内住居址 (西方から)

試掘調査

14 榛名平遺跡

所在地	佐久市大字根岸字榛名平
開発主体者	長野県土地開発公社
開発事業名	厚生年金福祉施設建設
調査期間	平成6年8月29・30日
面積	480㎡
調査担当者	富沢 一明



榛名平遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

榛名平遺跡は佐久市の西部に位置する。遺跡の地形は蓼科山麓から派生する一山麓の末端にあり、千曲川によって形成された沖積低地を見下ろす南東に傾斜した台地上にある。標高は680m内外を測る。

周辺の遺跡としては、西約400mの尾根上に濃の峯古墳が、また北西約1kmには石附室址群が存在する。本遺跡は平成5年度から大規模な発掘調査が行われており、今まで伝承のなかった中世後期の所産と考えられる溝を巡らす館跡が検出されている。また縄文時代前期～平安時代に及ぶ竪穴住居址100棟以上や中世後期と考えられる土壌墓・火葬墓も確認されている。

今回、厚生年金福祉施設建設に伴う道路建設が計画されたため、試掘調査を行うこととなった。



榛名平遺跡調査地点近景 (北方から)

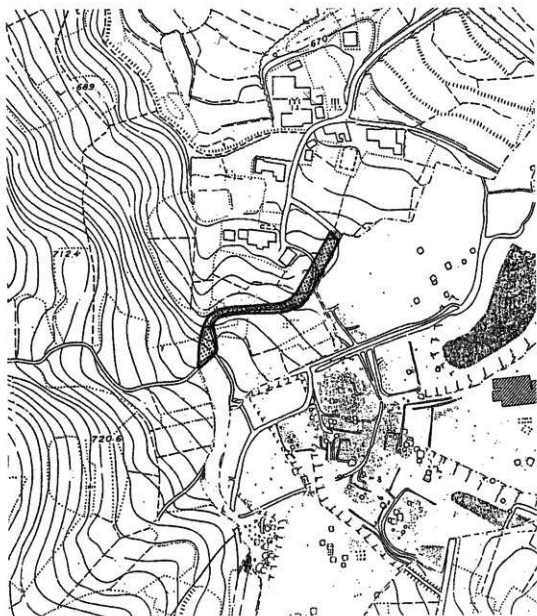


榛名平遺跡調査地点近景 (東方から)

調査の結果

開発対象地に幅約1.5mのトレンチを設定し調査を行った。その結果、調査地が遺跡の縁辺部にあたり尚かつ北向きの谷部に当たることなどから、当初の予想に反し、平成5年度調査に続く溝状遺構1本の検出にとどまり、遺物は検出されなかった。

試掘調査の結果を受け、協議の後、発掘調査を実施することとなった。



榛名平遺跡調査全体図

試掘調査

平賀中屋敷遺跡群

15 中屋敷遺跡 I

所在地 佐久市大字平賀字北耕地 5365-2

開発主体者 佐久建設事務所

開発事業名 交通安全事業に伴う歩道設置

調査期間 平成6年9月2日

面積 277.17㎡

調査担当者 富沢 一明



中屋敷遺跡 I 位置図 (1:10,000)

立地と経過

本遺跡は、滑津川左岸の段丘上にあり弥生時代中期～平安時代の複合遺跡である。調査地点は、標高687mを測り、北側に緩く傾斜する地形である。

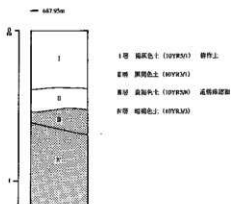
遺跡周辺には、古墳時代後期の大集落、約300棟が調査された樋村遺跡がある。

今回、佐久建設事務所が実施する県道昏坂中込線の交通安全事業に伴い、幅2mの歩道を設置することになり試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

開発対象地の中央に幅約1.5m、長さ90mのトレンチを設定し調査を行った結果、調査区北側では遺構・遺物ともに確認されず、調査区南側において住居址1棟と完形の土師器坏1点が確認された。

試掘調査の後、保護協議を行った結果、設計変更は難しく記録保存のための発掘調査を行うこととなった。



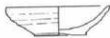
中屋敷遺跡 I 土層柱状図



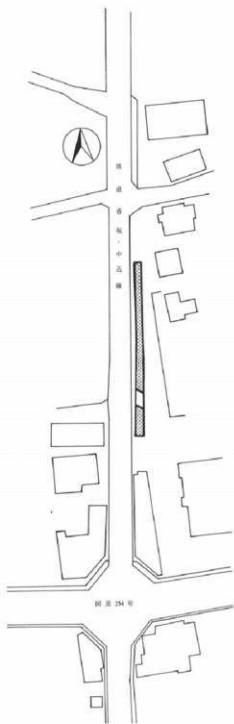
中屋敷道跡Ⅰ調査地点直景（南方から）



中屋敷道跡Ⅰトレンチ（南方から）



中屋敷道跡Ⅰ出土土器

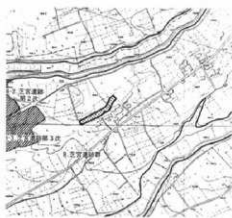


中屋敷道跡Ⅰ調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

16 芝宮遺跡群 7

所在地	佐久市大字長土呂字上芝宮 788-1他
開発主体者	佐久市（商工観光課）
開発事業名	工場団地造成
調査期間	平成6年9月5日
面積	1,937㎡
調査担当者	森泉かよ子



芝宮遺跡群 7 位置図(1:10,000)

立地と経過

芝宮遺跡群は、浅間山の噴火により堆積した浅間第一軽石流の堆積地域であり、浸食作用により発達した田切り地形の台地上に展開する。本調査地点は、この台地上に見られる小田切り内に位置し、標高はほぼ南西に走る田切りの北側が726m、南側が724m前後を測る。

今回、佐久市商工観光課により工場団地造成が計画され、田切りが埋め立てられることになったため事前に試掘調査を行った。

調査の結果

調査対象地内に、南北方向に3本のトレンチを設定し遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。田切りは現状で約3mほどの高低差を持ち、重機により約2m掘り下げたが底面は確認できなかった。試掘調査終了後、造成工事が行われた。



芝宮遺跡群 7 調査地点五景（西方から）



芝宮遺跡群 7 調査地点近景（西方から）

試掘調査

17 番屋前遺跡群 7

所在地 佐久市大字猿久保
字番屋前 853-4他

開発主体者 佐久建設事務所

開発事業名 緊急地方道路整備事業

調査期間 平成6年9月12日

面積 1,300㎡

調査担当者 上原 学



番屋前遺跡群7位置図 (1:10,000)

立地と経過

番屋前遺跡群は湯川の左岸の台地上にあたる。標高は695m付近を測り、弥生時代～平安時代の遺物が表面採取されている。

今回、佐久建設事務所による緊急地方道路整備が行われることとなり、試掘調査を行った。

調査の結果

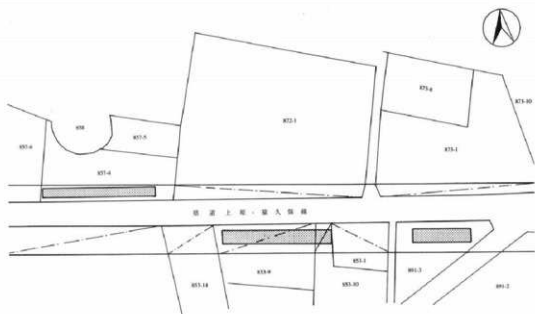
調査区に東西方向のトレンチを3本設定し、遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物ともに認められなかった。



番屋前遺跡群7調査地点近景 (西方から)



香屋前道跡群7調査地点近景（四方から）



香屋前道跡群7調査全体図（1:1,000）

試掘調査

18 平・横根古墳群 1

所在地 佐久市大字上平尾 1904-1他

開発主体者 佐久市（土木課）

開発事業名 木花佐久耶姫の森整備事業つつじ園路

調査期間 平成6年9月13～24日

面積 13,986.92㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

平古墳群は平尾富士の北西麓、湯川に向けてせり出している小丘陵の基部にある。標高は809～840mを測る。この小丘陵の裾野には横根古墳群や矢口古墳群も所在する。この小丘陵の最高所にある平古墳群の2号墳は、佐久市志願墓事業古式古墳分布調査の一環で昭和60年に試掘調査され、古墳ではないことが判明した。土師質土器が1片出土し、中・近世の旗塚と考えられている。

今回、平古墳群・横根古墳群内で佐久市土木課が市道6-74号線（木花佐久耶姫の森整備事業つつじ園路）工事を計画したので、用地内の詳細分布調査を行い径6m、高さ1.5m程の小円墳状の遺構を発見した。この遺構の性格を確認するため試掘調査を実施した。

調査の結果

石室等は検出されず古墳ではない。遺物は縄文時代中期の土器3片、石器1点が出土した。遺構は南北7.4m、東西6.6m、高さ1.3mを測り、中心部を径1m、深さ0.2m掘り窪め5層に分層される盛土がなされていた。塚頂下30cmに落ち込みがみられた。平古墳群2号墳と同様、平尾城に関連する旗塚と考えられる。



平・横根古墳群1位置図(1:10,000)



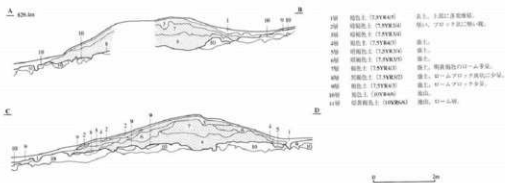
平・横根古墳群1調査地点近景（北方から）



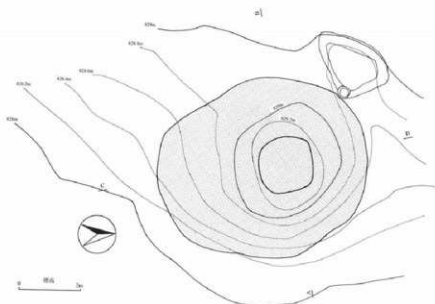
平・横根古墳群1調査地点近景（東方から）



平・横根古墳群 1 調査地点近景 (東方から)



平・横根古墳群 1 土層図 (1:120)



平・横根古墳群 1 調査全体図 (1:120)

試掘調査

19 西赤座遺跡 8

所在地 佐久市大字岩村田 3645-1他
開発主体者 学校法人 佐久学園
開発事業名 グランド・駐車場造成
調査期間 平成6年10月20日～11月8日
面積 4,229.29㎡
調査担当者 林 幸彦



西赤座遺跡 8 位置図 (1:10,000)

立地と経過

本遺跡は南北に長い微高地上に所在し、標高732～737mを測る。遺跡のはほぼ中央の市道用地からは古墳時代～平安時代の集落址が検出されている。低地を挟んだ北東の上信越自動車道用地内の栗毛坂遺跡群からも、弥生・古墳時代～平安時代の集落址が調査されている。市道を隔てて西側に隣接する西赤座遺跡6は昨年度に試掘調査が行われ、南北にのびる溝が確認されている。

今回、学校法人佐久学園が佐久長聖中学校の駐車場・グランドを造成することになり試掘調査を実施した。

調査の結果

36棟の堅穴住居址、7棟の掘立柱建物址、溝4条、土坑、ピット群が検出された。遺物は古墳時代～平安時代の土師器・須恵器が出土した。表土から遺構確認面までの深さは、西側の駐車場用地で30～60cm、東側のグランド用地で40～60cmであった。

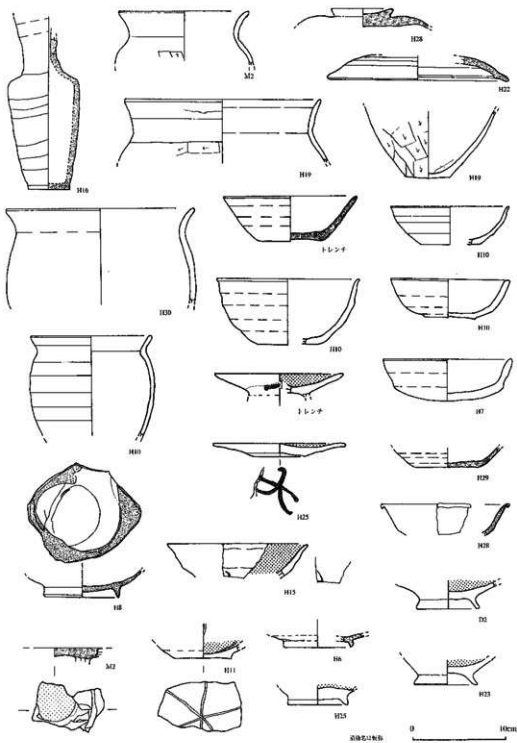
試掘調査終了後、駐車場用地は現状で、グランド用地は40～100cmの盛り土をし造成がなされた。



西赤座遺跡 8 グランド用地遺構検出状況 (北西方から)



西赤座遺跡 8 グランド用地遺構検出状況 (南東方から)



西赤原遺跡 8 出土遺物実測図 (1:4)



西赤塚道路8駐車場用地近景（南西方から）



西赤塚道路8駐車場用地遺構検出状況（北西方から）



西赤塚道路8調査全体図（1:750）



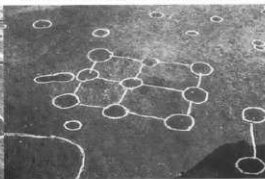
西赤塚遺跡8グラウンド用地遺構検出状況（北方から）



西赤塚遺跡8グラウンド用地遺構検出状況（西方から）



西赤塚遺跡8グラウンド用地遺構検出状況（南方から）



西赤塚遺跡8グラウンド用地遺構検出状況（北西方から）



西赤塚遺跡8グラウンド用地遺構検出状況（西南方から）



西赤塚遺跡8グラウンド用地遺構検出状況（北北西方から）



西赤塚遺跡8駐車場用地遺構検出状況（東方から）



西赤塚遺跡8駐車場用地遺構検出状況（東北方から）

試掘調査

20 常田居屋敷遺跡群 4

所在地	佐久市大字塚原字屋敷 335-1他
開発主体者	株式会社アメック
開発事業名	宅地造成
調査期間	平成6年10月31日～11月2日
面積	4,976㎡
調査担当者	林 幸彦



常田居屋敷遺跡群4位置図 (1:10,000)

立地と経過

常田居屋敷遺跡群は佐久市の北西隅に位置し、標高は691mを測り、弥生時代後期から平安時代の遺物が確認されている。また、常田居屋敷遺跡群内には家地頭古墳群や大豆塚古墳群が存在し、家地頭古墳群1号墳が発掘調査されている。今回、株式会社アメックが宅地造成を計画したので試掘調査を実施した。

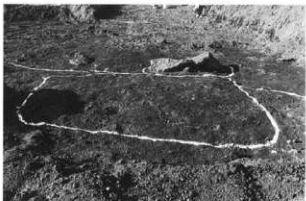
調査の結果

対象地の北側中央は、小高い畑であり古墳の存在も考えられたが、塚原泥流の残丘であった。その西側から堅穴住居址が3棟と堅穴状遺構が1基検出された。南側には黒色土の堆積する帯状の低地がみられた。遺物は弥生時代中期後半・後期後半、古墳時代前期・後期の土器が出土した。H1・2号住居址(仮称)からは弥生時代後期後半、H3号住居址(仮称)から弥生時代中期後半、堅穴状遺構から古墳時代初頭の土器が出土した。

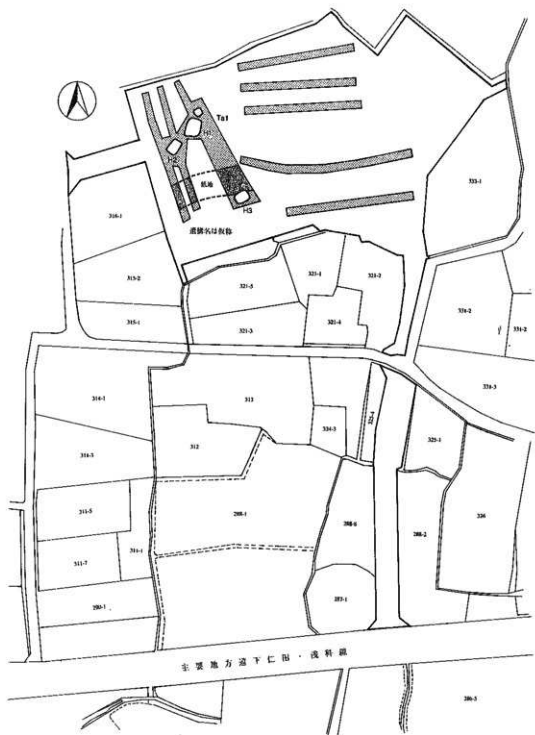
従来、本古墳群から以西は、古墳の存在しか知られていなかった。1991・1992年に行われた藤塚遺跡Ⅱの発掘調査で弥生時代後期終末から古墳時代前



常田居屋敷遺跡群4調査地点近景(東方から)



常田居屋敷遺跡群4遺構検出状況(南方から)



常田厩屋敷遺跡群4調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

21 番屋前遺跡群 8

所在地 佐久市大字猿久保
字番屋前 7-6

開発主体者 株式会社江戸一

開発事業名 店舗増築

調査期間 平成6年11月6日

面積 1,014.74㎡

調査担当者 上原 学



番屋前遺跡群 8 位置図

立地と経過

番屋前遺跡群は佐久市大字猿久保に所在し、湯川によって形成された第二段丘面上に位置する。標高は693m付近を測る。周囲は平坦な台地が広がり、北側に隣接して猿久保屋敷添遺跡、西に西吾妻遺跡などが存在する。また北方には蛇行しながら流れる湯川が認められ、番屋前遺跡群のほぼ中央を南北方向に国道141バイパスが通過する。調査対象地は、遺跡群の西端、国道141バイパス沿いに位置する。

今回、株式会社江戸一による店舗増築工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

店舗増築によって遺構の破壊が予想される地域について、幅1mのトレンチを東西方向に1本入れ、遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物ともに確認できなかった。



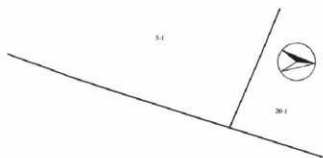
番屋前遺跡群 8 トレンチ (西方から)



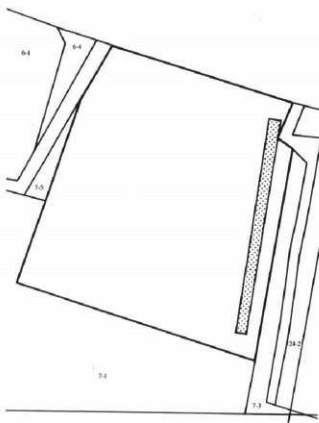
香屋前道路群8調査地点近景（西方から）



香屋前道路群8調査地点近景（西方から）



国道141号



香屋前道路群8調査全体図（1:500）

試掘調査

22 平賀城跡 3

所在地 佐久市大字平賀字北谷津

4341-4他

開発主体者 東京電力株式会社

千曲川電力所

開発事業名 鉄塔建替工事

調査期間 平成6年11月7日

面積 120.2㎡

調査担当者 上原 学

立地と経過

平賀城跡は佐久市大字平賀字北谷津に所在する。調査の対象となった地域は遺跡の北端、山の南斜面にあたり、標高は708～714m付近を測る。

今回、東京電力株式会社千曲川電力所による鉄塔建替工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査は、鉄塔建設予定地二カ所に幅1.5mのトレンチを南北方向に3本、東西方向に1本入れ、遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物の確認はできなかった。



平賀城跡3位置図 (1:16,000)



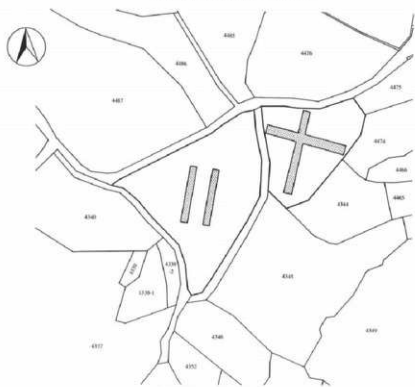
平賀城跡3調査地点近景 (南方から)



平賀城跡3調査地点近景 (東方から)



平賀城跡3調査地点近景（東方から）



平賀城跡3調査全体図（1:1,000）

試掘調査

23 中原遺跡群 5

所在地 佐久市大字中込
字下原 3818-1

開発主体者 与志本林業株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成6年11月9・10日

面積 2,514.38㎡

調査担当者 上原 学



中原遺跡群5位置図 (1:10,000)

立地と経過

中原遺跡群は、佐久市大字中込字下原に所在し、標高685m付近を測る台地上に位置する。

今回、与志本林業株式会社による宅地造成が行われることとなり、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区に幅1.2mのトレンチを南北方向に9本入れ遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物の確認はできなかった。試掘調査終了後、造成工事が行われた。



中原遺跡群5調査地点近景 (北方から)



中原道跡群5調査地点近景（南方から）



中原道跡群5トレンチ（南方から）



中原道跡群5調査全体図（1:1,000）

試掘調査

24 岩村田遺跡群11

所在地 佐久市大字岩村田 159-4
開発主体者 波辺 春吉
開発事業名 貸店舗建設
調査期間 平成6年11月10日
面積 1,018㎡
調査担当者 林 幸彦



岩村田遺跡群11位置図 (1:10,000)

立地と経過

岩村田遺跡群は岩村田市街地の北半から仙祿湖東方に位置し、標高702～737mを測る。市街地から県道佐久軽井沢線沿線は、上信越自動車道のインターチェンジ設置及び佐久市岩村田北部区画整理事業により店舗等の建設が続いている。

今回、波辺春吉氏が貸店舗を建設することになった。対象地は佐久市岩村田北部区画整理事業に関わる盛り土の際に調査がなされていないため、試掘調査を実施した。

調査の結果

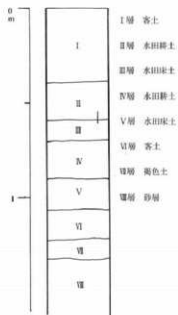
東西に2本のトレンチを設定し遺構の確認を行った。北側のトレンチは40cmの客土で2面の近代の水田が確認された。その下部には砂層がみられた。南側のトレンチは1mの客土であった。遺物の出土はなかった。試掘調査終了後、対象地の西端に店舗が建設された。



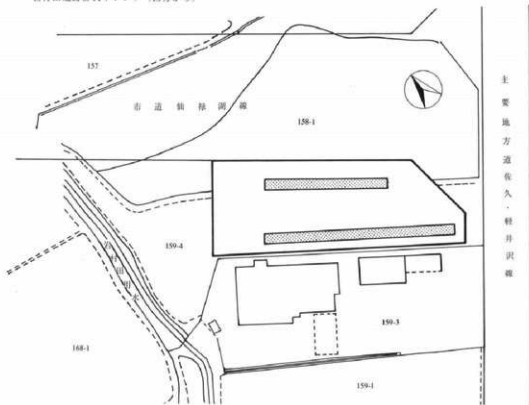
岩村田遺跡群11調査地点近景 (西方から)



岩村田遺跡群11トレンチ (西方から)



岩村田遺跡群11土層柱状図



岩村田遺跡群11調査全体図 (1:750)

試掘調査

25 池端遺跡 I

所在地 佐久市大字新子田
 宇池端・北畑

開発主体者 有限会社新栄開発

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成6年11月14日

 ～12月3日

面積 19,845㎡

調査担当者 上原 学

立地と経過

池端遺跡は佐久市大字新子田宇池端に所在し、標高は701～706mを測る。この付近は、以前から池端城跡と呼ばれており、中世館跡の存在が考えられていた地域である。また、平成6年10月からは北方に隣接する権現平遺跡の調査が行われており、縄文時代から中世に至る多くの遺構が調査された。今回、有限会社新栄開発による宅地造成が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区内に南北方向に17本、東西方向に18本のトレンチを設定し遺構の確認を行った。その結果、東側12,000㎡については遺構の存在は認められなかったが、西側台地上面部分において遺構が確認された。このため遺構分布把握のため遺構密集地点のトレンチ拡張を行い、住居址10棟、土坑20基、溝状遺構2条を確認した。遺物は縄文土器、土師器、中世の土鍋などが出土した。試掘調査終了後保護協議を行い、遺構が確認された西側台地部分約6,000㎡について発掘調査を行うこととなった。



池端遺跡 I 位置図 (1:10,000)



池端遺跡 I 調査地点近景 (西方から)



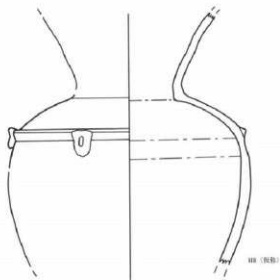
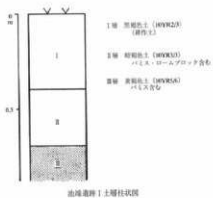
池端遺跡 I 調査地点近景 (北方から)



池端遺跡Ⅰ調査地点近景（東方から）



池端遺跡Ⅰ調査地点近景（北方から）



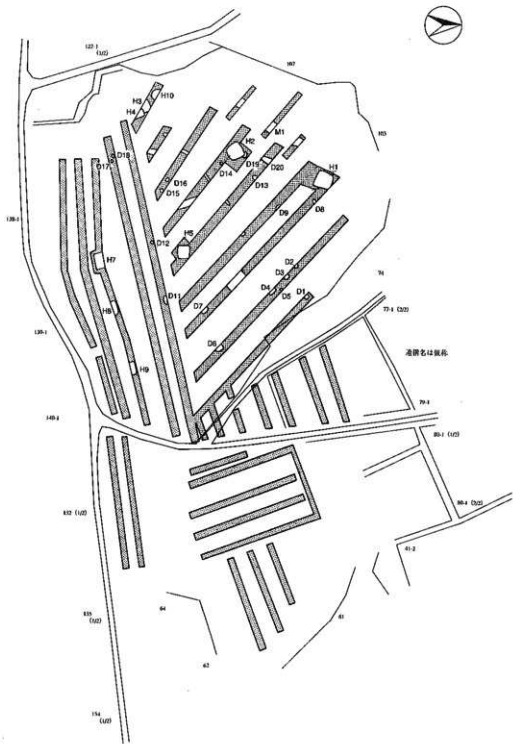
池端遺跡 I 出土土器実測図 (1:4)



池端遺跡 I H 8 (假称) 出土土器



池端遺跡 I H 8 (假称) 出土土器



池端遺跡Ⅰ調査全体図 (1:800)

試掘調査

26 上の城遺跡群 5

所在地 佐久市大字岩村田字西八日町 2157-1
開発主体者 大和ハウス工業株式会社
開発事業名 共同住宅建設
調査期間 平成6年11月16～22日
面積 1,154.27㎡
調査担当者 林 幸彦



上の城遺跡群 5 位置図 (1:10,000)

立地と経過

本遺跡群は湯川右岸台地上にあり、標高701～709mを測る。1973年(昭和48年)度に国道141号バイパス用地内、1983年(昭和58年)度に住宅団地造成用地内が発掘調査され、弥生時代中期～平安時代の大規模な集落址が確認されている。藤ヶ崎城跡(上の城)は、本遺跡群の南東部にある。西に隣接する弥生時代中期～平安時代の大規模遺跡である一本柳遺跡群とは、現在JR小海線によって東西に分離されているが地形的には連続する遺跡群である。

今回、柳沢良氏が共同住宅を建設することになったため、遺構の状況を把握するため試掘調査を実施した。

調査の結果

対象地の北側の大半は、下水道工事砕石置き場として使用された際の深い掘削で攪乱され、このため遺物が多量に出土した。遺構は弥生時代中期後半～平安時代の堅穴住居址が34棟も検出された。その多くは重複していた。

試掘調査後40～50cm(確認面から90cm)の盛り土後共同住宅が建設された。



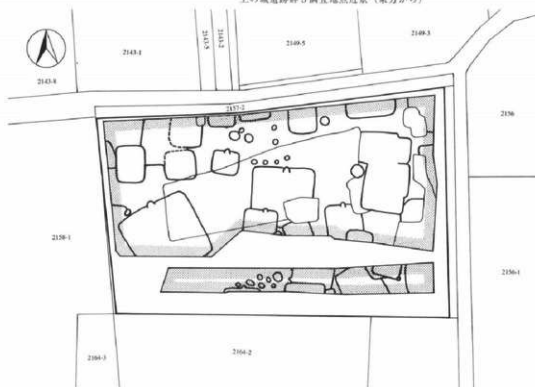
上の城遺跡群 5 遺構検出状況(東方から)



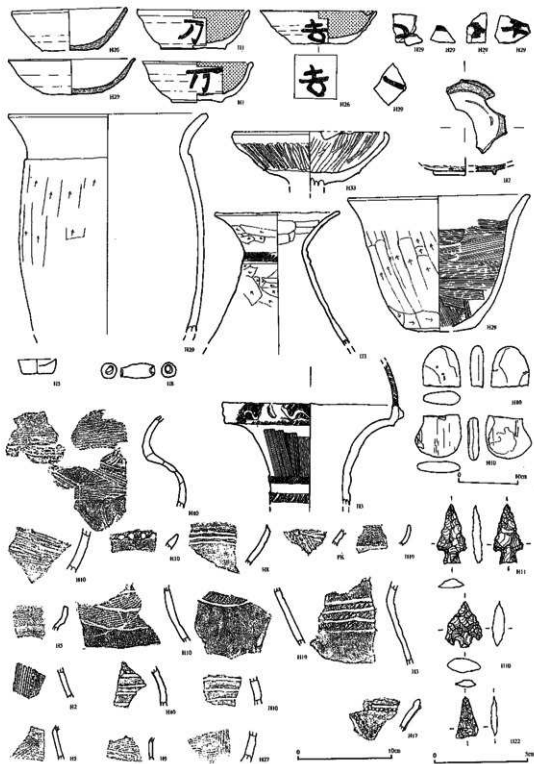
上の城道跡群5遺構検出状況（北方から）



上の城道跡群5調査地点近景（東方から）



上の城道跡群5調査全体図（1:1,000）



上の城遷跡群5出土遺物実測図（遺物名は仮称）

試掘調査

27 鳴沢遺跡群 2

所在地 佐久市大字根々井字オノ神 882-1

字東原 881-3

開発主体者 有限会社田園不動産

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成6年11月25～28日

面積 894㎡

調査担当者 森泉かよ子



鳴沢遺跡群 2 位置図(1:10,000)

立地と経過

本調査地は西流する湯川の右岸にあたり、標高685m内外で東側には谷が入り込む台地の縁辺にあたる。この地点は浅間第一軽石流の堆積地域であり地表を覆っている。当地より東方には谷を隔てて、弥生時代から平安時代を中心とした北西ノ久保遺跡がある。北西ノ久保遺跡は昭和57・60年に発掘調査が行われ、158棟の竪穴住居址、19基の古墳などが検出された大遺跡である。また南側は中世の根々井館跡の比定地でもある。

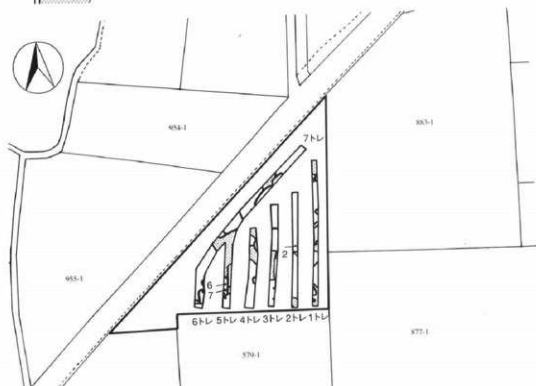
今回、有限会社田園不動産により宅地造成が行われることとなり、試掘調査を行った。

調査の結果

調査区内に7本のトレンチを設定し遺構の確認を行った。その結果、竪穴住居址18棟と土坑10基を検出したが、重複が激しく明確な遺構確認は困難であった。弥生時代中期から後期の土器を中心に平安時代の土器も含めてテンバコに2箱出土した。耕作土から遺構確認面までは50～60cmであり、保護協議の結果、表土より30cm以上の盛り土を行い造成工事を実施することとなった。



第1トレンチ遺構検出状況（南方から）



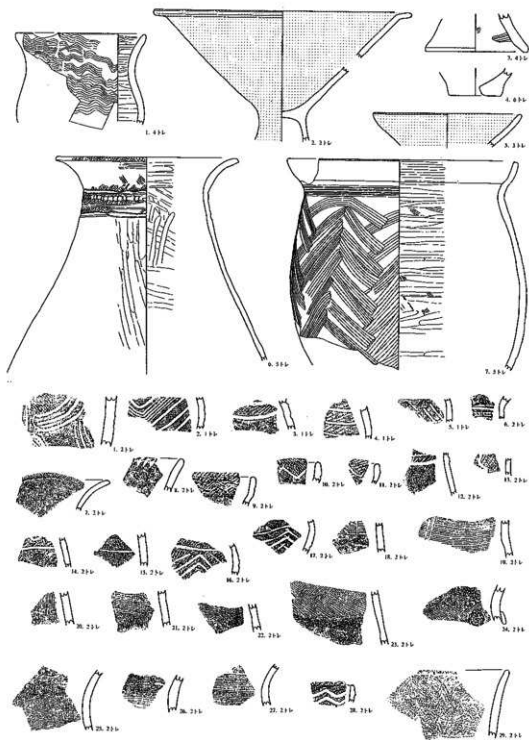
鳴沢遺跡群2土層柱状図・調査全体図 (1:750)



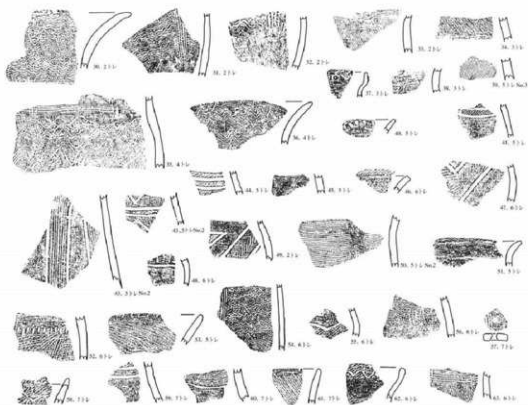
第3トレンチ遺構検出状況 (南方から)



第5トレンチ遺構検出状況 (南方から)



响识遗址群 2 出土土器类陶器·拓影图〈1〉(1:4)



鳴沢遺跡群之出土土器拓影図(2)(1:4)



第7トレンチ遺構発出状況(南西方より)

試掘調査

28 西大久保遺跡群1

所在地 佐久市大字安原字東大久保 1271-1他
大字下平尾

開発主体者 佐久市（土木課）

開発事業名 道路改良事業

調査期間 平成6年11月28日

面積 589.07㎡

調査担当者 森泉かよ子



西大久保遺跡群1位置図(1:10,000)

立地と経過

西大久保遺跡群は湯川の左岸、平尾富士の南麓に広がる小平地上にあたる。標高は720m内外で、東側には谷が入り込む台地の縁辺部に位置する。当遺跡群内では昭和61年に行われた西大久保遺跡の発掘調査で、平安時代の土器、打製石斧などが出土している。

今回、佐久市土木課により道路改良工事が行われることになったため、試掘調査を行った。



西大久保遺跡群1トレンチ（南方から）

調査の結果

調査対象地に沿ってトレンチを設定し、遺構の確認を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



西大久保遺跡群1土層柱状図



西大久保遺跡群1調査全体図(1:1,000)

試掘調査

29 栗毛坂遺跡群13

所在地 佐久市大字岩村田
字中曾根 25-1

開発主体者 小林登始衛

開発事業名 貸店舗建設

調査期間 平成6年12月5日

面積 2,343㎡

調査担当者 上原 学

立地と経過

栗毛坂遺跡群は佐久市大字岩村田に所在し、この地域特有の南北に長い田切り地形の台地上に位置する。標高は742m付近を測る。

今回、小林登始衛氏により貸店舗建設が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査は東西方向に7本、南北方向に2本のトレンチを設定し遺構の確認を行った。その結果、南北にのびる溝跡を1条確認した。協議の結果、盛り土を行い工事が実施されることとなった。



栗毛坂遺跡群13位置図 (1:10,000)



栗毛坂遺跡群13遺構検出状況 (南西方から)



栗毛坂道跡群13調査地点近景（西方から）



栗毛坂道跡群13トレンチ（南方から）



栗毛坂道跡群13調査全体図（1:1,000）

試掘調査

30 三千束遺跡群 1

所在地 佐久市大字三塚 2-1、75-1
開発主体者 株式会社星野組
開発事業名 事務所・倉庫建設
調査期間 平成7年1月9・10日
面積 984㎡
調査担当者 富沢 一明



三千束遺跡群1位置図 (1:10,000)

立地と経過

三千束遺跡群は、標高約670m前後の千曲川によって形成された沖積地に立地する。当遺跡付近では、市道遺跡・跡部町田遺跡・三塚遺跡・寺添遺跡などが調査されている。各遺跡からは、古墳時代中期・後期の住居址がいずれも確認されており、付近は大規模な集落遺跡の可能性を色濃く示している地域である。

今回、株式会社星野組が事務所及び倉庫建設を計画したため、事前に試掘調査を行った。

調査の結果

開発対象地に3本のトレンチを設定し、試掘調査を行った。その結果、対象地西側で住居址が



三千束遺跡群1調査地点近景 (西方から)



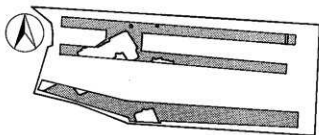
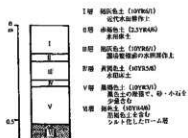
三千束遺跡群1調査地点近景 (西方から)

確認された。住居址は部分的に重複しており、正確な実数は把握困難であったが、少なくとも9棟の住居址の存在が確認できた。また、東側で溝状遺構が1条確認された。確認された住居址は、採集された遺物より平安時代と古墳時代後期の所産と考えられる。

以上の結果をふまえて保護協議を行った結果、盛り土により遺跡を保護し、建物基礎部分の深さも遺跡に影響を及ぼさないよう工事変更となった。

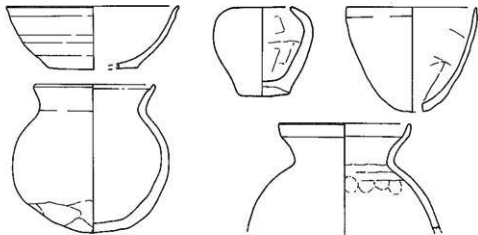


三千東遺跡群 I・寺跡遺跡 I 位置図 (1:5,000)



三千東遺跡群 I 土層柱状図

三千東遺跡群 I 調査全体図 (1:1,000)



三千東遺跡群 I 出土土器実測図 (1:4)

試掘調査

31 中反遺跡群 2

所在地 佐久市大字瀬戸 1892-1

開発主体者 柳沢 士行

開発事業名 共同住宅建設

調査期間 平成 7 年 1 月 27 日

面積 1,043㎡

調査担当者 富沢 一明

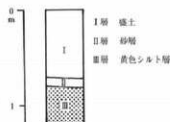


中反遺跡群 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

中反遺跡群は、佐久市大字瀬戸に所在する平安時代の遺跡で、志賀川左岸に形成された段丘上に位置する。

今回、柳沢士行氏による共同住宅建設にあたり試掘調査を行った。



中反遺跡群 2 土層柱状図

調査の結果

開発対象地に 2 本のトレンチを設定し調査を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



中反遺跡群 2 調査地点近景 (西方から)



中反遺跡群 2 トレンチ (東方から)



中反遺跡群 2 調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

32 下蟹沢遺跡 1

所在地 佐久市大字長土呂字下蟹沢 251-1他
大字岩村田字蟹沢端 1066他

開発主体者 株式会社平成不動産

開発事業名 店舗建設

調査期間 平成7年2月14日

面積 5,175.20㎡

調査担当者 羽毛田卓也



下蟹沢遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経緯

下蟹沢遺跡は長土呂の田切り低地に所在する弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡である。今回の試掘調査地点は遺跡の東端、標高711mの微高地南西緩斜面に位置する。

今回、株式会社平成不動産が店舗を建設することとなったため試掘調査を実施した。

調査の結果

店舗および駐車場部分は現地表面に2mの盛り土をするため、遺構の破壊が懸念される浄化槽工事部分を中心にトレンチを掘削した。その結果、30cmほどの厚みの表土(水田耕作土)の下より、追分火砕流の2次堆積層が検出された。さらに70cmほど下げたがまだ下方に続いているようだった。これ以上下

方には工事が進まないため掘削を中止した。数層に分けられる火砕流2次堆積層をその都度精査したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



下蟹沢遺跡1調査地点近景(南方から)



下蟹沢道跡1トレンチ（南方から）



下蟹沢道跡1土層（西方から）



下蟹沢道跡1調査全体図（1:2,000）

試掘調査

33 西大久保遺跡群 2

所在地	佐久市大字上平尾
開発主体者	佐久建設事務所
開発事業名	県単高速道関連道路改良
調査期間	平成7年2月20日
面積	750㎡
調査担当者	上原 学



西大久保遺跡群2位置図 (1:10,000)

立地と経過

西大久保遺跡群は佐久市大字上平尾に所在し、標高730mを測る。調査区は湯川によって形成された第2段丘面の西端にあたり、西方向には南北方向に流れる湯川を見下ろすことができる。付近には西宮古墳・横石古墳の他、横根古墳群といった多くの古墳が点在する。また、昭和61年度には市道平根南北線建設工事業に伴い、西大久保遺跡の発掘調査が行われている。

今回、佐久建設事務所による道路整備が行われることとなり、遺構の有無を確認するためトレンチによる試掘調査を行った。

調査の結果

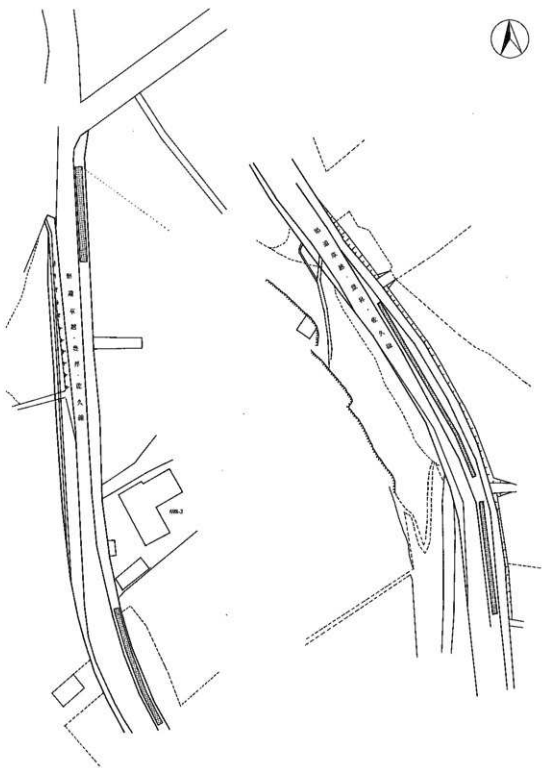
道路拡張部に沿って幅90cmのトレンチを南北方向に5本入れ、遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物の存在は認められなかった。



西大久保遺跡群2調査地点近景 (南方から)



西大久保遺跡群2調査地点近景 (北方から)



西大久保遺跡群2調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

34 龍子田遺跡 1

所在地 佐久市大字塚原字龍子田 632

開発主体者 株式会社佐久総合

開発事業名 事務所建設

調査期間 平成7年2月24日

面積 2,431㎡

調査担当者 上原 学

立地と経過

龍子田遺跡は佐久市大字塚原字龍子田に所在し、標高684mを測る平坦な台地上に位置する。付近には多くの古墳が存在し、調査対象地も小高い墳丘状を示しており、古墳の可能性が十分考えられた。

今回、株式会社佐久総合による事務所建設工事が行われることとなり、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

調査区内に幅1.5mのトレンチを南北方向に3本、東西方向に6本入れ遺構の確認を行った。その結果、この墳丘状のものは周辺にもよく見られる浅間山の噴火に伴う赤岩の固まりであることが確認できたほか、今回の調査では遺構・遺物の存在は認められなかった。



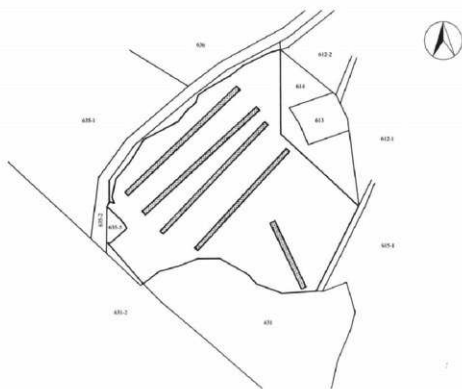
龍子田遺跡1位置図 (1:10,000)



龍子田遺跡1遠景 (南方から)



籠子田遺跡1調査地点近景（南方から）



籠子田遺跡1調査全体図（1:1,000）

試掘調査

長士呂遺跡群 35 聖原遺跡X

所在地 佐久市大字岩村田字上取端 149-1
開発主体者 株式会社アメニティーズ
開発事業名 パチンコ店・映画館・レストラン建設
調査期間 平成7年2月27日～3月2日
面積 3,400㎡
調査担当者 森泉かよ子



聖原遺跡X位置図(1:10,000)

立地と経過

長士呂遺跡群は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置し、御代田方面から南西方向にのびる田切り地形に挟まれた台地上にあり、この台地上には東から栗毛坂遺跡群・枇杷坂遺跡群・長士呂遺跡群・芝宮遺跡群・周防畑遺跡群・近津遺跡群・岩村田遺跡群などが展開しており、佐久市でも多数な遺跡群が密集している地域である。聖原遺跡Xは長士呂遺跡群のほぼ中央部に位置し、標高は738m付近を測る。この地域は上信越自動車道関係の発掘調査をはじめ佐久流通乗務団地造成事業、道路整備事業、区画整理事業、その他民間開発等に伴う大規模な発掘調査が継続して行われている地域である。本遺跡の東側には隣接して上型塚遺跡、平成元年度から約90,000㎡の発掘調査が行われている聖原遺跡があり、検出された遺構の総数は堅穴住居址約930棟、掘立柱建物址約780棟にのぼる。また、田切りを隔てた南側の西曾根遺跡I～III、上久保田向遺跡I～VII、曾根新城遺跡I～VIでは、平成元年度から平成6年度にかけて区画整理事業・民間開発に伴う発掘調査が実施され、平安時代の堅穴住居址を中心とする多数の遺構が検出されている。

今回、株式会社アメニティーズによりパチンコ店・映画館・レストランの建設が計画されたため、進入路・駐車場用地について試掘調査を行うこととなった。

調査の結果

調査区内に南北方向に7本のトレンチを設定し、重機により表土を剥いで精査した。第1トレンチ地点は進入路として道路工事される地点である。古墳時代から平安時代の堅穴住居址7棟、掘立柱建物址6棟、土坑1基、溝状遺構が検出された。遺構の破壊が予想されるため発掘調査を行うこととなった。第2～第7トレンチ地点は駐車場用地である。古墳時代から平安時代の堅穴住居址6棟、掘立柱建物址4棟、土坑3基、溝状遺構、ピットを検出した。駐車場用地は遺構確認面まで70cmほどあり、盛り土をして埋土保存することとなった。



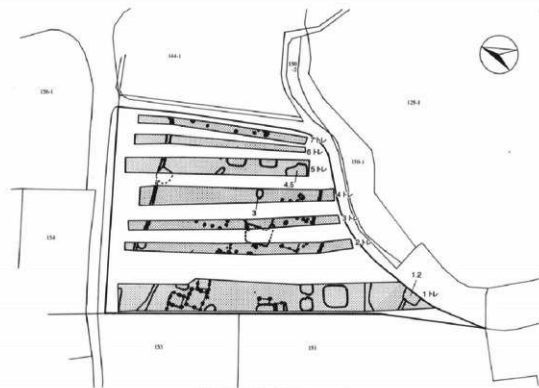
第1トレンチ遺構検出状況（北方から）



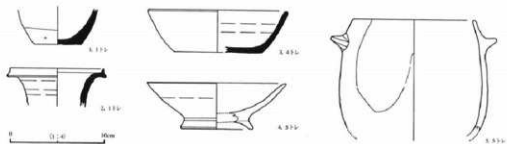
第2・第3トレンチ（南方から）



第5・第6トレンチ（南方から）



聖原遺跡X調査全体図 (1:1,000)



聖原遺跡X出土土器実測図 (1:4)



聖原遺跡X土場

- | | | |
|------|------------------|-------------------------|
| I層 | 暗褐色土 (10YR 3/3) | 耕作土 |
| II層 | 褐色土 (10YR 4/4) | サラサラした砂質、細かい緻密土。 |
| III層 | 灰黄褐色土 (10YR 5/2) | サラサラした砂質、細かい緻密土。 |
| IV層 | 黒褐色土 (10YR 2/2) | サラサラした土、まれに径5mm大のバミス含む。 |
| V層 | 黒褐色土 (10YR 2/3) | サラサラした土、バミス含む。 |
| VI層 | 暗褐色土 (10YR 3/3) | ローム粒子・バミス多く含む。 |
| | | 遺構物出現 |

試掘調査

36 戸屋敷遺跡群 2

所在地 佐久市大字安原戸屋敷 1028-8

開発主体者 小島 房太

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成7年3月2日

面積 2,522㎡

調査担当者 富沢 一明



戸屋敷遺跡群2位置図 (1:10,000)

立地と経過

戸屋敷遺跡群は、浅間火山の第一軽石流に覆われた標高715mの台地上に所在する。周辺地形は北よりのびる舌状台地を呈し、小規模な谷部は水田として利用されている。台地と谷部の高低差は10mを測る。周辺の遺跡としては、蛇塚B遺跡・安原大塚古墳・燕城跡などがある。

今回、小島房太氏による宅地造成に伴い試掘調査を行った。

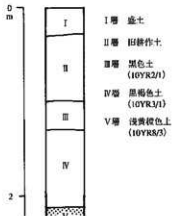
調査の結果

開発対象地内に5本のトレンチを設定し調査を行った。

その結果、調査区中央部では土取りのため、すでに遺構確認前まで削平が行われていたが、調査区南側において幅2mの東西に走る溝状遺構1条を確認した。溝状遺構の南側には、円形土塚が3基確認された。表面で採取された遺物は中世の時期を示すものであったが、遺構の所産時期に結びつくかは不明である。

また、調査区西側中央部では深さ2mほどの埋没谷が検出されたが、遺物は認められなかった。

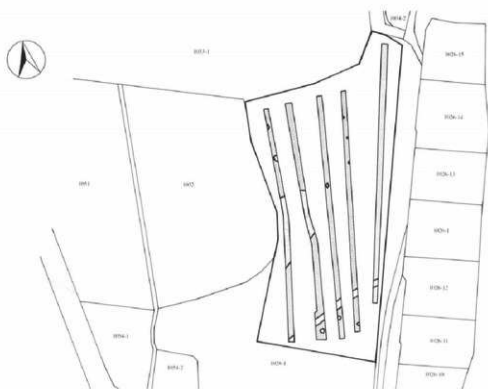
試掘調査の後、保護協議を行った結果、遺構に影響を及ぼさないように盛り土をして工事を行うよう設計変更がなされ、遺構は破壊されず埋め戻しを行った。



戸屋敷遺跡群2土層柱状図



戸屋敷遺跡群2 調査地点近景 (南方から)



戸屋敷遺跡群2 調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

芝宮遺跡群

37 高山遺跡Ⅱ

所在地 佐久市大字長土呂字下高山 717-1他

開発主体者 佐久市土地開発公社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成7年3月6～9日

面積 3,000㎡

調査担当者 三石 宗一

立地と経過

高山遺跡Ⅱは、田切り地形にはさまれた台地上に展開する芝宮遺跡群の西端部に位置し、標高は719m前後を測る。

今回、佐久市土地開発公社により宅地造成事業が計画されたため試掘調査を実施した。

調査の結果

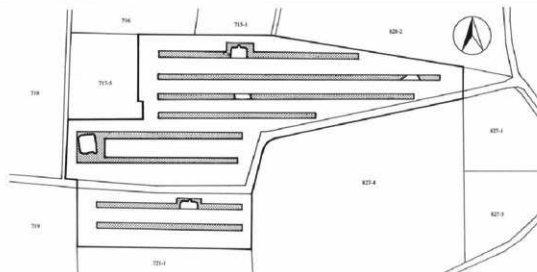
調査対象地内に8本のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。その結果、竪穴住居址5棟が検出されたため、発掘調査を実施することとなった。



高山遺跡Ⅱ位置図 (1:10,000)



高山遺跡Ⅱ調査地点近景 (北方から)



高山遺跡Ⅱ調査全体図 (1:1,000)

立会い調査

38 中道遺跡 2

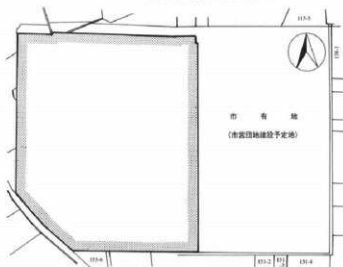
所在地 佐久市大字前山字中道 107-8
開発主体者 長野県
開発事業名 県営住宅建設
調査期間 平成6年4月4日
面積 12,173.58㎡
調査担当者 林 幸彦



中道遺跡 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

中道遺跡は、片貝川の右岸にあって、標高は668m内外を測る。1971年(昭和46年)度に発掘調査され古墳時代～平安時代の竪穴住居量が6棟検出され、和同開珎や三彩陶器が出土している。1991年(平成3年)度には、県道沿いが立ち会い調査されているが、遺構・遺物は検出されていない。



中道遺跡 2 調査全体図 (1:2,500)

調査の結果

県営住宅基礎部分の掘削時に立ち会ったが、遺構・遺物は検出されなかった。表土(水田・旧住宅基礎)下30cmには、円礫を多量に含む砂礫層がみられ、観察できた表土下170cmより下方に続く。



中道遺跡 2 調査地点近景 (南方から)

立会い調査

39 上小平遺跡2・棧敷遺跡3

所在地 佐久市大字安原
開発主体者 佐久建設事務所
開発事業名 県道拡幅
調査期間 平成6年5月23日
面積 110㎡
調査担当者 森泉かよ子



上小平遺跡2・棧敷遺跡3位置図(1:10,000)

立地と経過

本調査地は、浅間山の噴火により堆積した浅間第一軽石流の堆積地域であり、北に湯川が南西流する。標高は724m付近を測る。また、今回の調査地点の南側には棧敷古墳が存在する。

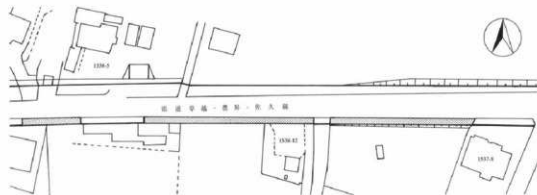
今回、昨年に引き続き佐久建設事務所が県道草越・豊昇・佐久線を拡幅することになり、立会い調査を実施した。

調査の結果

表土削平時に立会ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



上小平遺跡2・棧敷遺跡3調査地点近景(東方から)



上小平遺跡2・棧敷遺跡3調査全体図(1:1,000)

立会い調査

枇杷坂遺跡群

40 上久保田向遺跡 6

所在地 佐久市大字岩村田字上久保田向

215-2・5・6

開発主体者 株式会社平和不動産

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成6年9月21日

面積 291㎡

調査担当者 三石 宗一



上久保田向遺跡 6 位置図 (1:10,000)

立地と経過

上久保田向遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置し、南西方向にのびる田切り地形の台地上にある。この地域は、昭和61年度に長野県埋蔵文化財センターによって行われた上信越自動車道関係の発掘調査をはじめとして、区画整理事業、佐久流通業務団地造成事業、その他民間開発等に伴う大規模な発掘調査が継続して行われている地域である。本遺跡内においても上久保田向遺跡Ⅰ～Ⅴの調査が平成元年度から6年度にかけて行われ、平安時代の竪穴住居址を中心とする多数の遺構が検出されている。

今回、株式会社平和不動産による宅地造成に伴い、立会い調査を実施した。

調査の結果

建物基礎部分の削平の際に立ち会ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



上久保田向遺跡 6 調査地点近景 (南方から)



上久保田向遺跡 6 調査全体図 (1:1,000)

立会い調査

41 一本柳遺跡群 6

所在地 佐久市大字岩村田字西一本柳 2293-3
開発主体者 ナコー開発株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成6年11月31日
面積 1,659㎡
調査担当者 林 幸彦



一本柳遺跡群 6 位置図 (1:10,000)

立地と経過

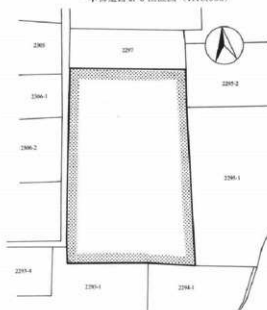
本遺跡群は湯川の右岸の台地上にあり、標高689～700mを測る。1968年(昭和43年)の一本柳住宅団地造成以来宅地化が進んでいる。記録保存調査された遺跡は、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳古墳、西一本柳遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲがあり、弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良・平安時代、中世の遺構が数多く検出されている。

今回、ナコー開発株式会社が宅地造成を計画した地点は、1991年(平成3年)・1992年(平成4年)に岩村田高校グラウンド・器具庫建設に際し、試掘調査・

発掘調査を実施した東隣にある。

調査の結果

盛り土が表土より50～60cmなされた後、基礎工事が実施された。表土より遺構確認面まで40～60cmを測るため、遺構の露呈はみられなかった。



一本柳遺跡群 6 調査全体図 (1:1,000)



一本柳遺跡群 6 調査地点近景 (東方から)

立会い調査

42 中久保田遺跡1

所在地 佐久市大字岩村田

16街区1・2・3号

開発主体者 北信米油株式会社

開発事業名 給油取扱所建設

調査期間 平成6年12月7日

面積 1,943㎡

調査担当者 上原 学



中久保田遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

中久保田遺跡は佐久市大字岩村田に所在し、南北方向に発達した田切り地形の台地上に位置する。標高は718～740mを測る。付近は平成5年に開通した上信越自動車道佐久インター開設に伴い、アクセス道沿線は多くの開発が相次いで行われている。

今回の事業もその一つであり、北信米油株式会社による給油取扱所（ガソリンスタンド）建設工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。

調査の結果

ガソリンスタンドの建設に伴い、遺構の破壊が予想される部分に幅1.2mのトレンチを東西方向に2本、南北方向に5本入れ、遺構の確認を行った。その結果、以前建てられていたと思われる建造物の基礎跡から土師器片を数点確認したものの、周辺からはこれに伴うと思われる遺構の確認はできなかった。



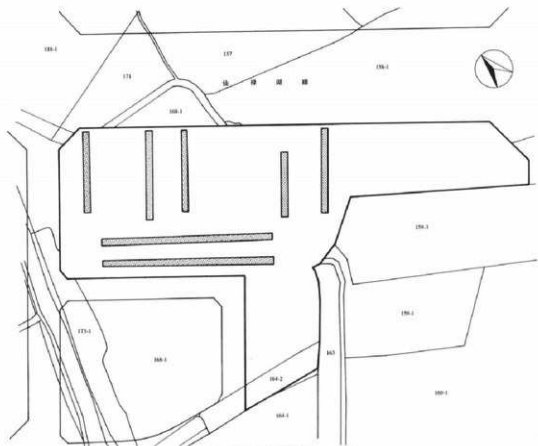
中久保田遺跡1調査地点近景（南方から）



中久保田遺跡1調査地点近景（西方から）



中久保田道路1調査地点近景（西方から）



中久保田道路1調査全体図（1:1,000）

立会い調査

43 中金井遺跡群 3

所在地 佐久市大字小田井 865-1他
開発主体者 佐久建設事務所
開発事業名 道路改良工事
調査期間 平成7年2月6日
面積 146.24㎡
調査担当者 上原 学



中金井遺跡群3位置図 (1:10,000)

立地と経過

中金井遺跡群は佐久市大字小田井に所在し、標高734～780mを測る。周辺はこの地域特有の田切り地形が南北方向に発達しており、谷に挟まれた台地上には芝宮遺跡群・長土呂遺跡群・跡坂遺跡群など多くの遺跡群が存在している。本遺跡群内では小田井工場団地造成事業・市道改良事業に伴い、荒田・上金井遺跡（昭和62年度）、金井城跡（昭和63年度、平成元・4年度）の発掘調査が約80,000㎡にわたって行われている。

今回、佐久建設事務所による主要地方道佐久・軽井沢線に関わる道路整備工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため立会い調査を行った。

調査の結果

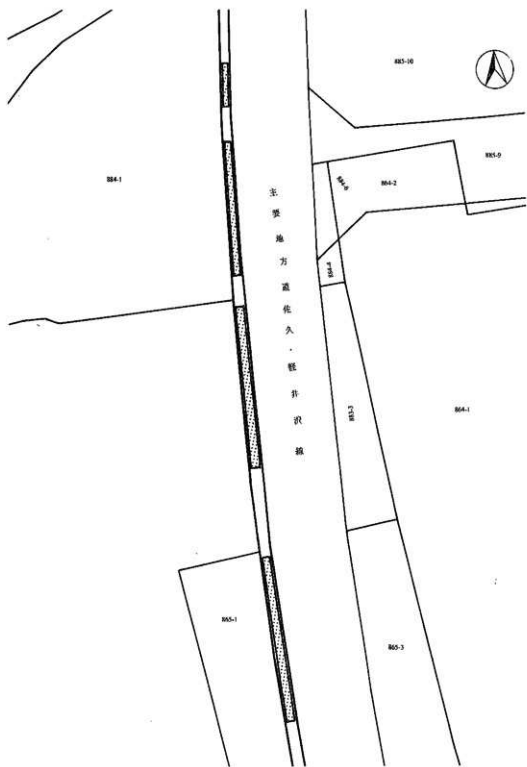
調査地域に南北方向のトレンチを入れ、遺構の確認を行った。その結果、遺構・遺物ともに確認できなかった。



中金井遺跡群3調査地点近景（東方から）



中金井遺跡群3調査地点近景（南方から）



中金井遺跡跡3調査全体図 (1:500)

立会い調査

44 周防畑遺跡群 5

所在地 佐久市大字長土呂字入高山 970-6
開発主体者 株式会社ウエルストーンエクロス
開発事業名 工場増築
調査期間 平成7年2月20日
面積 96.3㎡
調査担当者 羽毛田卓也



周防畑遺跡群 5 位置図 (1:10,000)

立地と経過

周防畑遺跡群は長土呂の田切り台地上に所在する、弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡である。今回の立ち会い調査地点は遺跡群のほぼ中央の台地南端、標高722mの微高地緩斜面に位置する。

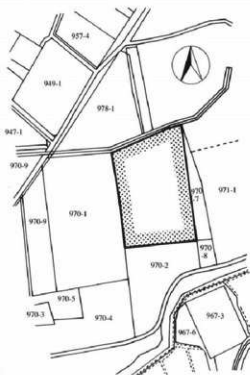
今回、株式会社ウエルストーンエクロスが工場を増築することとなったため立ち会い調査を実施した。

調査の結果

基礎工事の際に立ち会ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



周防畑遺跡群 5 調査地点近景 (南方から)



周防畑遺跡群 5 調査全体図 (1:1,500)

1994年度(平成6年度)市内遺跡発掘調査一覧表

1994年度(平成6年度)市内遺跡発掘調査一覧表

No	遺跡名	調査主体者	所在地	調査事業名	調査面積(m ²)	調査種別	調査期間	担当者
1	高野町遺跡群2	市学校教育課	新子田	学校改修	31,999.00	試掘	4.1	三石
2	上久保山内遺跡群	市区開発課課	香川町	道路改良工事	458.00	試掘	4.23	森森
3	寺尾遺跡1	市都市計画課 市上本郷	飯久保	道路改良工事	3,074.00 330.00	試掘	5.6~7	上塚
4	常田阿知坂遺跡群2	竹茂忠康	塚原	貸店舗建設	2,706.00	試掘	5.9	林
5	常田阿知坂遺跡群3	御アメック	塚原	宅地造成	2,600.00	試掘	6.13	上塚
6	宮の上遺跡群2	市土地開発公社	根ヶ井	宅地造成	2,704.00	試掘	6.27~28	上塚
7	北郷ノ久保遺跡1	学校法人飯久学園	岩村山	ゴルフ練習場建設	1,217.00	試掘	7.1	上塚
8	蛇塚1遺跡群	舟窪七郎	新子田	宅地造成	3,204.00	試掘	7.4~7	上塚
9	寺尾遺跡1	株式会社開発公社	二塚	職員宿舍建設	2,128.00	試掘	7.12	富沢
10	熊野遺跡群1	山田南吉郎	小田井	個人住宅	1,000.00	試掘	7.27	林
11	上久保山内遺跡5	西区衛生課課	岩村山	公園造成	5,760.00	試掘	8.3~7	森森
12	長渡平遺跡1	セキスイハイム福岡	新子田	宅地造成	40,670.00	試掘	8.9~26	西沢
13	香野前遺跡群6	ゼビオ㈱	飯久保	店舗建設	4,183.26	試掘	8.18	小塚
14	藤名平遺跡	藤上地開発公社	根ヶ井	厚生年金施設建設	480.00	試掘	8.29~30	西沢
15	中塚遺跡群1	飯久建設事務所	平賀	交通安全事業	277.17	試掘	9.2	西沢
16	長野遺跡群7	市商工観光課	長上呂	工場建設造成	1,977.00	試掘	9.5	森森
17	香野前遺跡群7	飯久建設事務所	飯久保	道路改良工事	1,300.00	試掘	9.12	上塚
18	平・廣徳遺跡群1	市上本郷	上平尾	道路改良工事	13,969.92	試掘	9.13~24	林
19	西赤坂遺跡8	学校法人飯久学園	岩村山	グラウンド・駐車場造成	4,229.29	試掘	10.20~11.8	林
20	常田阿知坂遺跡群4	御アメック	塚原	宅地造成	4,976.00	試掘	10.31~11.2	林
21	香野前遺跡群8	細江ジャー	飯久保	店舗増築	1,044.74	試掘	11.6	上塚
22	平賀遺跡3	東京電力㈱ 千曲川電力所	平賀	鉄塔建設	120.20	試掘	11.7	上塚
23	中原遺跡群5	与志木林業㈱	中込	宅地造成	2,514.38	試掘	11.9~10	上塚
24	岩村山遺跡群11	渡辺春吉	岩村山	貸店舗建設	1,018.00	試掘	11.10	林
25	熊尾遺跡1	飯新井開発	新子田	畑地造成	19,845.00	試掘	11.14~12.3	上塚
26	上の城遺跡群5	大和ハウス工業㈱	岩村山	共同住宅建設	1,154.27	試掘	11.16~22	林
27	鳴沢遺跡群2	飯田園不動産	根ヶ井	宅地造成	894.00	試掘	11.25~28	森森
28	西大久保遺跡群1	西十本郷	安原、下平尾	道路改良工事	589.07	試掘	11.28	森森
29	栗毛坂遺跡群13	小林豊地舎	岩村山	貸店舗建設	2,343.00	試掘	12.5	上塚
30	二ヶ京遺跡群1	明星野郎	三塚	事務所・倉庫建設	984.00	試掘	1.9~10	富沢
31	中央遺跡群2	神沢士行	瀬戸	共同住宅建設	1,643.00	試掘	11.28	富沢
32	下塚遺跡群1	飯平成不動産	長上呂・岩村山	店舗建設	5,175.20	試掘	2.14	羽毛田
33	西大久保遺跡群2	飯久建設事務所	上平尾	道路改良工事	750.00	試掘	2.20	上塚
34	熊子田遺跡群1	飯佐久総合	塚原	事務所建設	2,431.00	試掘	2.24	上塚
35	飯原遺跡群5	御アミニティーズ	岩村山	パチンコ・映画館建設	3,402.00	試掘	2.27~3.2	森森
36	戸原遺跡群群2	小島得夫	安原	宅地造成	2,522.00	試掘	3.2	西沢
37	高山遺跡8	市土地開発公社	長上呂	宅地造成	3,000.00	試掘	3.6~9	三石
38	中塚遺跡群2	長野浩	前山	県営住宅建設	12,173.38	立会	4.4	林
39	上小平尾2-1号遺跡群	飯久建設事務所	安原	県営住宅	110.00	立会	5.23	森森
40	上久保山内遺跡6	飯平和不動産	岩村山	宅地造成	291.00	立会	9.21	三石
41	一本掛遺跡群0	ナゴ一蘭整備	岩村山	宅地造成	1,659.00	立会	11.31	林
42	中久保山遺跡1	北野不動産	岩村山	給湯室併設建設	1,943.00	立会	12.7	上塚
43	中井井遺跡群3	飯久建設事務所	小田井	道路改良工事	146.24	立会	2.6	上塚
44	熊野前遺跡群5	鶴のエルストンクロス	長上呂	工場増築	96.30	立会	2.20	羽毛田



付圖 1994年改市白港鄉免縣劃委區圖 (1:50,000)

佐久市埋藏文化財調査報告書

- 第1集 『金井城跡』
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集 『石附築址跡』
第4集 『大ふけ遺跡』
第5集 『立科ノ遺跡』
第6集 『上曾根遺跡』
第7集 『三貫畑遺跡』
第8集 『瀧の下遺跡』
第9集 『国道141号横間橋遺跡』
第10集 『東原遺跡Ⅱ』
第11集 『赤塚河外遺跡』
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並城跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月～3月)
第18集 『西曾根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下壺塚遺跡Ⅱ』
第21集 『金井城跡Ⅱ』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上壺塚遺跡』
第25集 『上久保田内Ⅳ』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集 『上久保田内Ⅲ』
第28集 『曾根折城Ⅴ』
第29集 『山法師遺跡B 筒村遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』
第32集 『東ノ野』
第33集 『豊原遺跡Ⅳ 下曾根遺跡Ⅰ 前藤部遺跡Ⅰ』
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集 『蛇塚Ⅱ遺跡Ⅲ』
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集 『中壺塚遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保田内遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ
西曾根遺跡Ⅲ・Ⅳ』
第42集 『寄山』
第43集 『権現平遺跡 池原遺跡』
第44集 『寺塚遺跡』

佐久市埋藏文化財調査報告書 第45集

市内遺跡発掘調査報告書1994

1996年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込 3056

埋藏文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀 5953

TEL. (0267) 68-7321

印刷所 株式会社 COX

